広報あつま

2019年
平成31年　3月号

もくじ
CONTENTS

2 ひとのうごき
3－7 あの日から6カ月
8－9 厚真町復旧･復興計画策定方針
10－13 被災者支援情報
14－15 国民年金
16 北海道知事選挙・北海道議会議員選挙
町議会議員選挙
17－21 お知らせ
22－23 1～2月のあつま
24 #ATSUMA LOVER入賞作品発表
気象台ノート
25 日本ハムファイターズ厚真町応援デー
臨時職員募集
26 厚高インフォメーション／将来の夢
27 健康情報
28 保健の掲示板
29 子育て支援センター
30－31 情報ひろば

今月の表紙
COVER

2月24日に「あつま新鮮組」が創立30周年を記念し、「巨大あつまるくんモザイクアートチャレンジ」を厚真中央小学校で行いました。
モザイクアートの作成を通して、子どもから大人まで一つになって協力しながら完成させていました。

ひとのうごき

平成31年2月28日現在　(　)内は前月比

人　口　4,581人（－2）
男 2,287人　女 2,294人

世帯数　2,147世帯（＋3）

2月1日～2月28日届出分

※窓口などで、広報紙への掲載について確認できた方を掲載しています。

「広報あつま」はホームページでもご覧いただけます
http://www.town.atsuma.lg.jp/office/

広報あつまの電子書籍はこちらから。
www.hokkaido-ebooks.jp
北海道内のすべてがそろう"電子書籍"ポータルサイト「ホッカイドウ イーブックス」
Hokkaido ebooks
ホッカイドウ イーブックス実行委員会（株式会社 須田製版 内）Tel.011-621-1000（代表）

平成30年北海道胆振東部地震

あの日から6カ月

昨年9月6日、3時7分。暗闇の中、突然激しい揺れが町を襲いました。夜が明けていくとともに、被害の状況があらわになりました。広い範囲で山の斜面が崩れ、茶色い土肌がむき出しに。道路は陥没や亀裂、倒壊した家屋、土砂崩れなどにより、あらゆる場所で通行不能になりました。

厚真町を襲った地震は一瞬にして甚大な被害をもたらし、36人もの尊い命やかけがえのない多くのものを失いました。

あの日から半年を迎えようとしていた、2月21日21時22分。またも最大震度6弱の大きな揺れが町を襲いました。昨年の地震の恐怖を思い出した方も多くいたのではないでしょうか。災害は、いつどこで起きるかわかりません。災害から命を守るために、災害が起きた時の行動や万が一の事態への備えが重要です。

この半年間で何があったのか、写真やデータで振り返ります。

あの時、何が起きたのか

昨年9月6日3時7分、胆振地方中東部を震源とするマグニチュード6･7、震度7を記録する大規模な地震が発生しました。道内で震度7を記録したのは観測史上初めてのことです。

この地震の発生以降、地震活動が活発となり、町では震度1以上の地震が300回以上記録され、その内、震度5弱の地震が2回、震度4の地震が17回発生しました。2月21日21時22分には昨年9月6日以降最大の震度6弱の地震が発生しました。

集落一帯が土砂に飲み込まれた吉野地区
（写真：国土交通省提供）

北海道初の震度7

発生日時 / 平成30年9月6日　3時7分
震源地 / 胆振地方中東部（北緯42.7度･東経142.0度）
震源の深さ / 37km
最大震度 / 震度7
震度7：厚真町　震度6強：安平町、むかわ町　震度6弱：札幌市東区、千歳市、日高町、平取町

人的被害　死亡 36人

地区	幌内	富里	高丘	吉野	桜丘	朝日	幌里
人数	4人	4人	2人	19人	1人	2人	4人

地震に伴う土砂災害や多数の家屋倒壊などにより、北海道全体で死者42人（災害関連死１人含む）、負傷者775人の人的被害が発生し、厚真町では36人が犠牲となりました。

自衛隊や消防などによる捜索活動
（写真：陸上自衛隊第7師団提供）

昨年８月に配水を開始したばかりの富里浄水場が土砂崩れにより稼働停止に（写真：国土交通省北海道開発局提供）

他自治体の応援職員による建物被害調査

建物被害

全壊 **885棟**

り災証明書（居住分）交付件数 **1,354件**

昨年９月12日からり災証明書の交付申請の受け付けを開始し、９月18日から被害建物の調査を開始しました。

	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	被害なし	合計
住家	224棟	68棟	246棟	1,090棟	207棟	1,835棟
非住家	661棟	161棟	499棟	801棟	659棟	2,781棟
合計	885棟	229棟	745棟	1,891棟	866棟	4,616棟

※平成31年２月12日現在

被害額　合計 823億円

区分	内容	被害額
公共土木施設	道路、河川、橋、上下水道	188億円
農業関係	農地、農業用施設、共同利用施設	110億円
林業	林道、森林被害	458億円
その他	商工業、宅地堆積土砂、災害廃棄物等	67億円
合計		823億円

※平成30年12月17日現在　※国、北海道が実施する事業等は含まない

収穫できず雪に覆われた稲穂

農業被害

区分	カ所数など
農地	94カ所 154.7ha
農業用施設	69カ所
農業機械・施設	183戸
共同利用施設	8カ所
国営勇払東部地区かんがい排水事業	ダム 1カ所、頭首工 1カ所 揚水機 1カ所、導水路 18.2km

林業被害

区分	カ所数など
林道	3路線
森林	3,200ha

農地への土砂堆積や用水路などの損壊が多数発生しました。特に、完成を来年度に控えた国営勇払東部かんがい排水事業の厚幌導水路も大きな被害も受けました。また、水稲や畑作物、ハスカップなどの作物にも被害が生じました。また、大規模な山腹崩壊、土砂崩れにより林地、林道の損壊などが発生しました。

道路　通行止め 65日

道道は昨年11月13日までに通行止めは解除されました。町道は、土砂崩れなどにより立ち入りが困難な地域の５路線を除き、9月28日までに応急復旧を完了しています。

区分	理由	路線数	規制期間
国道	－	－	－
高規格道路	路面損傷	1	9月6日～9月8日
道道	土砂崩れ等	4	9月6日～11月8日
	橋の損傷	2	9月6日～11月13日
町道	土砂崩れ等	25	9月6日～9月28日

大きく陥没した道道10号線

電気　停電 3日

土砂崩れなどにより立ち入りが困難な地域を除き、昨年９月８日までに停電は解消されました。

地区	停電期間
町内全域	9月6日～9月8日

水道　断水 33日

富里浄水場が土砂崩れにより破損したため、直近まで使用していた新町浄水場の再稼働の準備と復旧を行い、昨年９月11日から再稼働、９月12日から水道管の漏水調査および復旧工事を実施しました。土砂崩れなどで立ち入り困難な地区を除き、10月９日までに断水を解消しました。

上厚真地区は、上厚真浄水場の復旧、送水管・配水管の漏水調査および復旧工事を実施し、９月24日までに断水を解消しました。

地区	戸数	断水期間
厚真地区	1,188戸	9月6日～10月9日
上厚真地区	753戸	9月6日～9月24日

地域情報　不通 113日

土砂崩れによる光通信ケーブルが断線し、あつまネットおよびテレビ共聴施設が不通となりました。土砂崩れなどにより立ち入りが困難な地域を除き、昨年12月28日までに復旧しました。

区分	戸数	不通期間
あつまネット	29戸	9月6日～12月28日
テレビ共聴施設	62戸	

鉄道　運行休止 73日

昨年11月18日までに復旧工事が完了し、11月19日から運転が再開されました。

区分	理由	運休期間
ＪＲ日高線（苫小牧～鵡川）	軌道変移 橋桁ずれ	9月6日～11月18日

声

厚真消防団
団長　五十嵐（いがらし）　次男（つぎお）さん（64歳）

町の消防防災のリーダーとして平成28年４月から厚真消防団の団長を務めています。自らの地域を自らで守る消防団は、いち早く災害現場へ駆け付け、救助や救出、避難誘導など昼夜を問わず活動に当たっています。

厚真消防団は、厚真市街地を中心とする第一分団、上厚真市街地を中心とする第二分団、女性消防からなる消防団で、89人が所属しています。団員は９月６日の発災後から昼夜を問わず人命救助や捜索活動に当たりました。団員は、日ごろから農道や迂回路、住民の暮らしなど地域の状況を詳しく把握していたため、迅速な情報収集や捜索活動を行うことができました。誰もが初めて経験する大災害にも関わらず、ケガ一つなく落ち着いて活動してくれたと思います。

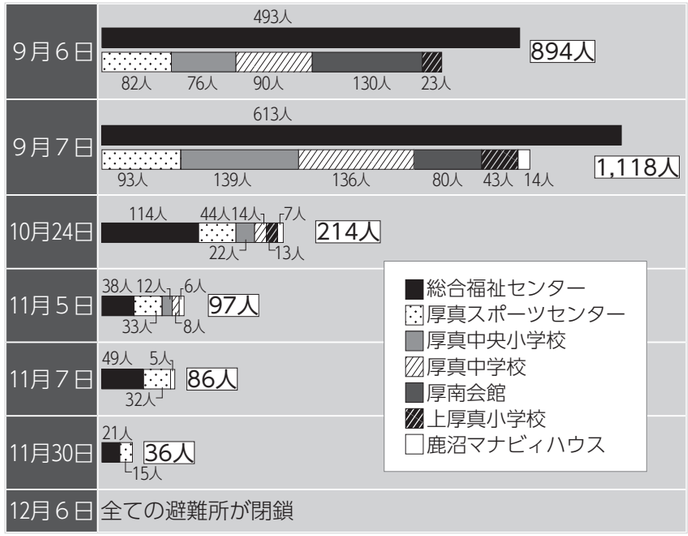
また、９月30日の台風第24号、10月６日の台風第25号の接近に伴い、消防職員・役場職員とともに危険箇所の住民を早目に避難誘導しました。

会社の業務がある中、消防団活動を優先し送り出してくれた地元事業者の皆さん、家庭が大変な中、団員を支えてくれた家族の皆さんに感謝申し上げます。

春になると雪解けが進み、土砂災害の恐れがあるので、早期発見や二次災害の防止に努めたいです。

避難所　開設期間 91日

〔 避難所の開設状況と避難者数の推移 〕



避難生活の長期化を予測し、大型施設を中心に避難所を開設しました。

避難者数は、昨年９月７日には町民の４分の１に当たる1,118人が避難を余儀なくされました。その後、電気や水道の復旧や応急仮設住宅の建設に伴い、徐々に閉鎖し、12月６日には全ての避難所を閉鎖しました。

発災から11日後の厚真中学校避難所

表町公園仮設団地

応急仮設福祉住宅

仮設住宅　合計 180世帯

新町地区に全国初となる高齢者、障がい者に配慮した大型の応急仮設福祉住宅が建設されました。

区　分	入居開始日	世帯数	人数
応急仮設住宅	第１期：11月１日 第２期：11月30日	124世帯	282人
みなし仮設住宅	９月27日	18世帯	30人
公営住宅	９月８日	27世帯	63人
トレーラーハウス	12月27日	11世帯	24人
応急仮設福祉住宅	１月21日	―	90人
合　計		180世帯	489人

※平成31年２月19日現在

声

東北大学災害科学国際研究所
助教　定池（さだいけ） 佑季（ゆき）さん（39歳）

平成28年度から３年間、町防災アドバイザーを務め、発災から現在も災害対応の助言や災害ボランティアの後方支援、支援団体との連携などに尽力。

奥尻中学校２年生の時、北海道南西沖地震（平成５年）を経験しました。「あの災害は何だったんだろう」という思いから災害研究の道に進み、防災・減災や復興・生活再建に関わる活動をするようになりました。

厚真町に初めて来たのは平成25年２月。町に通う中で、素直に話を聞いてくれる子どもたちや地域のことを真剣に考える大人たちに出会い、すっかり「厚真ファン」になっていました。

昨年９月６日の地震のニュースを見て、いてもたってもいられずに駆けつけました。そこから厚真町に通い詰めて６カ月。外部からの役場や社協への支援が不足しているように見えます。町民を支える組織への支援が町民への支援につながるので、災害研究者なりのお手伝いができないかと模索する日々です。

２月21日の地震の翌日も厚真町に来ました。久しぶりの大きな余震は精神的にもしんどいものですが、そのような中、いたわり合い、助け合う姿に感激しました。そして、「この方たちが生活再建を果たすまで手伝わせてもらいたい」という思いを新たにしているところです。

声

ボランティアチーム
石狩思いやりの心届け隊
隊長　熊谷（くまがい） 雅之（まさゆき）さん（51歳）

発災直後から現在もボランティア活動を行っています。平成23年３月の東日本大震災から被災地支援を続けています。

平成23年３月に発生した東日本大震災がきっかけで災害ボランティアの団体を結成しました。これまで岩手県陸前高田市で炊き出しや宮城県石巻市の復興イベントの手伝いなどを行ってきました。同隊は、高校生から50歳代の約70人が活動しています。石狩市や札幌市の他、東京都や神奈川県などから駆けつけてくれる仲間もいます。

昨年９月８日の朝、何かお手伝いできないかと石狩市から厚真町へ車を走らせました。

厚真中央小学校と厚真中学校避難所の貯水タンクの水が不足しているとのことだったので、一度、石狩市へ戻り、翌朝９トンの水を運びました。その後は炊き出しや、水道の修理、農作業の手伝いなど、発災から２月下旬までに80回ほど厚真町を訪れています。

厚真町で出会った方は、新規就農者や移住者も多く、新しい風を受け入れてくれる住民の優しさを感じました。農村地域は古くからの風習を大事にし過ぎて、新しいことを受け入れない場合も多いので。住民同士が支え合っている姿を見ると、今でも何かできることはないかと思います。

東日本大震災の時もそうでしたが、家が傾いて寒さを我慢していても「うちなんかより、あの人を手伝ってあげて」とおっしゃる方が多くいます。少しでも多くの方が暮らしやすい環境を提供できるよう支援したいです。

人的支援　25,836人

発災直後から、警察や消防、自衛隊など人命救助や捜索活動、警戒活動などに当たっていただきました。国や北海道、道内外の自治体の応援職員には長期にわたり、被害調査や復旧業務、避難所運営など支援いただきました。

区　分	支援内容	延べ人数
国	国交省、気象台、タイムライン	880人
北海道	災害対策現地情報連絡員（リエゾン） り災証明書交付支援、避難所運営支援	6,480人
市町村	環境業務、物資、水道応急、土木・下水道技術支援	1,530人
東北６県	り災証明書交付支援、避難所運営支援	1,337人
自衛隊	人命救助、道路啓開、給水、給食、入浴、輸送	14,359人
警察	人命救助、警戒活動	750人
消防	人命救助、警戒活動	500人
合　計		25,836人

※平成30年12月28日現在

災害派遣医療チーム（DMAT）や自衛隊などによる救護支援（写真：苫小牧保健所提供）

応急仮設住宅への引っ越しを行う災害ボランティア

災害ボランティア

昨年９月７日に町社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置し、９月10日からボランティアの募集・活動を開始しています。発災直後から全国各地のボランティアが駆け付け、現在も多くの方が活動しています。

区分	延べ人数	活動期間
災害ボランティア	4,606人	9月10日～

※平成31年２月13日現在

義援金など

発災直後から多くの物資や義援金・寄付金が寄せられました。また、厚真町へのふるさと納税を代理で受け付けていただいている自治体もあります。全国からのご支援に感謝します。

区　分	支援内容
町配分義援金	７億4,630万円
北海道配分義援金	４億5,418万円
支援金	１億9,293万円
ふるさと納税	10億3,186万円（代理受付：６自治体）

※平成31年１月31日現在